

2004年度 (2005年3月期)

業績概要

2005年4月27日

日本ビクター株式会社



Victor · JVC

The Perfect Experience

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。

1. 営業利益は大幅減益・純利益は赤字

- 連結営業利益: 03年度比59%減益

2. 海外民生の販売苦戦(米州・欧州)

- 新商品投入遅れ、欧米市場でのカムコーダー苦戦

3. 音楽ソフト不振

- ソフト大型作品の発売延期・ヒット不足

4. 国内民生大幅伸長(前年比124%)

- 液晶TV・DVDレコーダー・オーディオの伸長

2004年度(2005年3月期) 業績概要(連結)

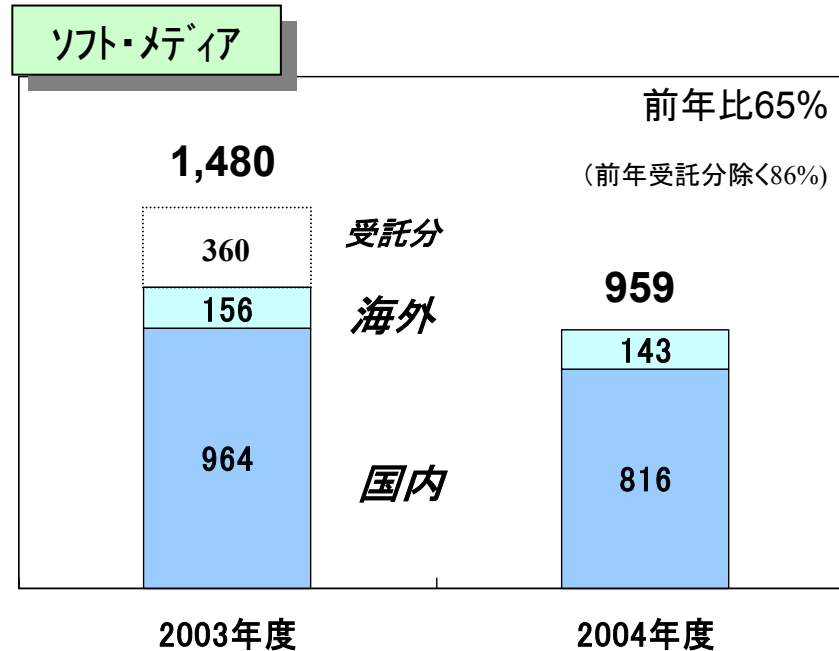
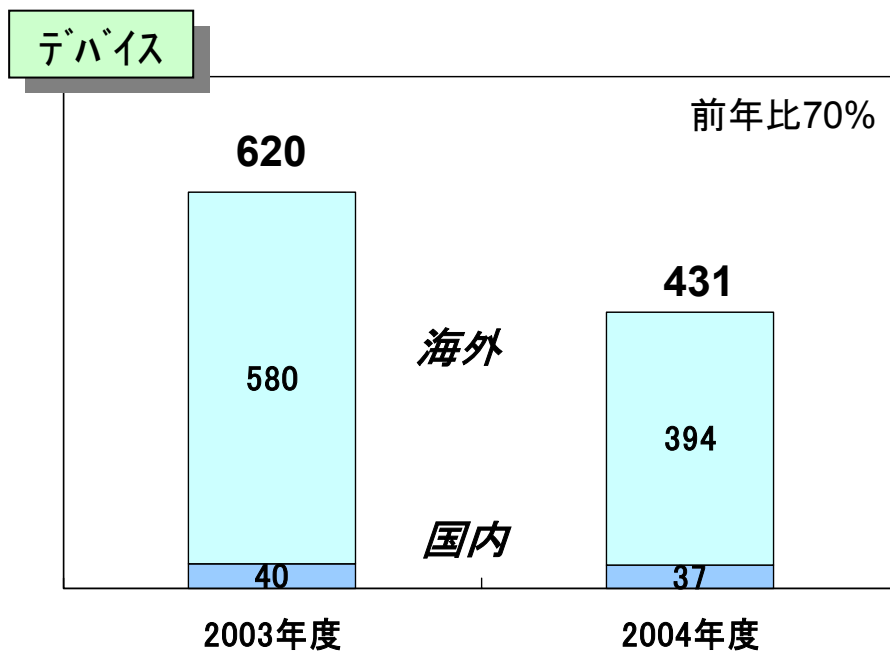
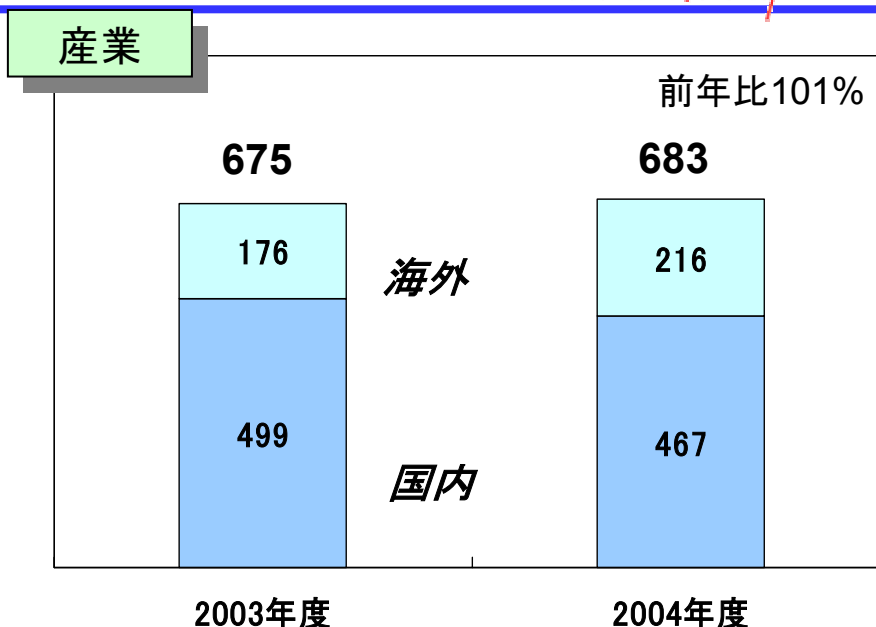
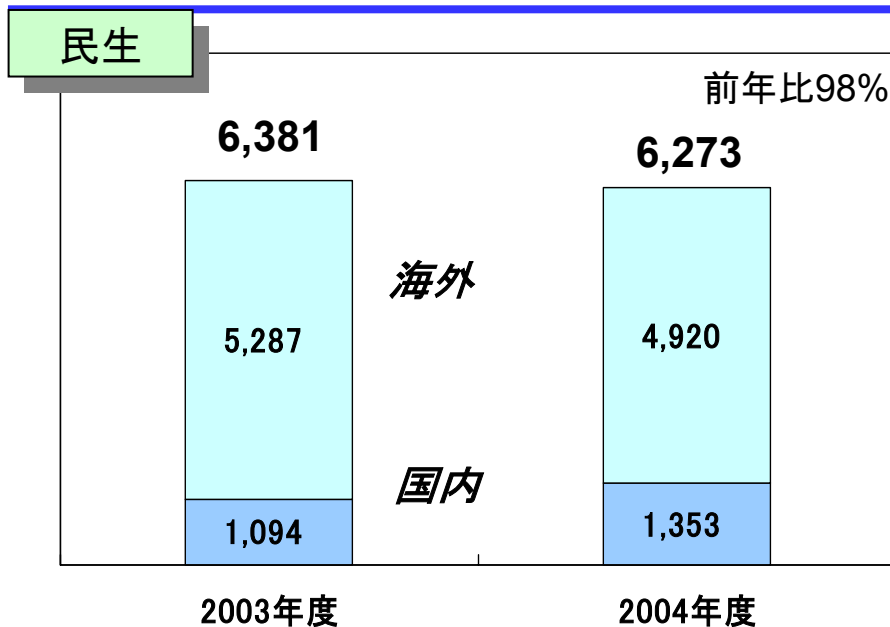
(億円)

	実 績	前年実績	前年差/比
売上高	8,406	受託除< 9,220	95%
営業利益	1.2% 104	2.7% 252	41% ▲ 148
経常利益	0.9% 73	2.2% 202	36% ▲ 129
純利益	-0.2% ▲ 19	1.7% 156	— ▲ 175

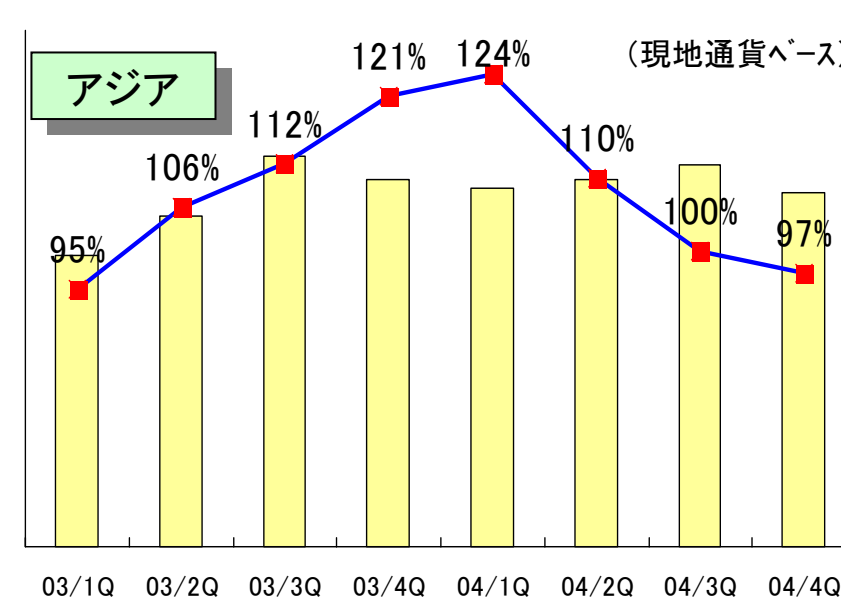
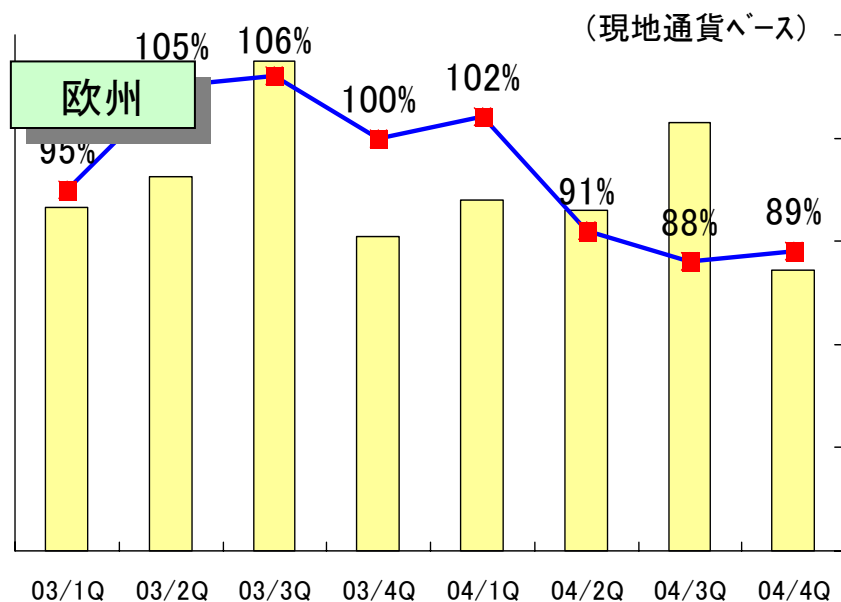
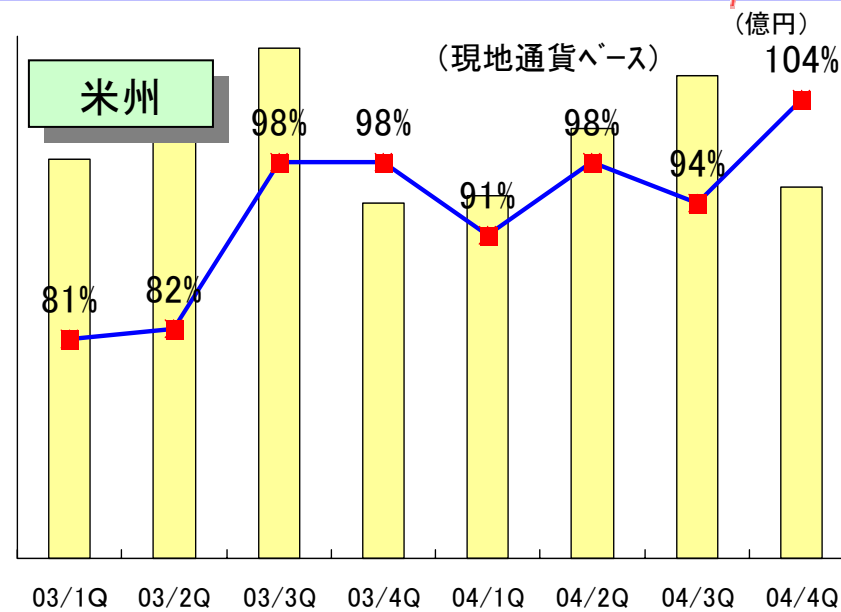
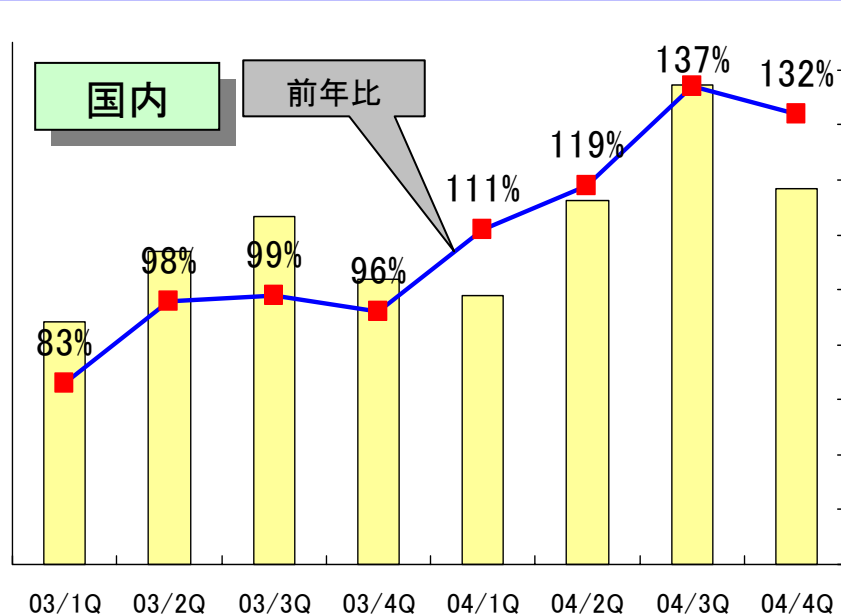
【参考:単独】

	実 績	前年実績	前年差/比
売上高	4,488	5,017	89%
営業利益	-0.6% ▲ 27	1.6% 79	— ▲ 106
経常利益	1.3% 59	1.4% 69	86% ▲ 10
純利益	1.0% 46	1.4% 72	63% ▲ 26

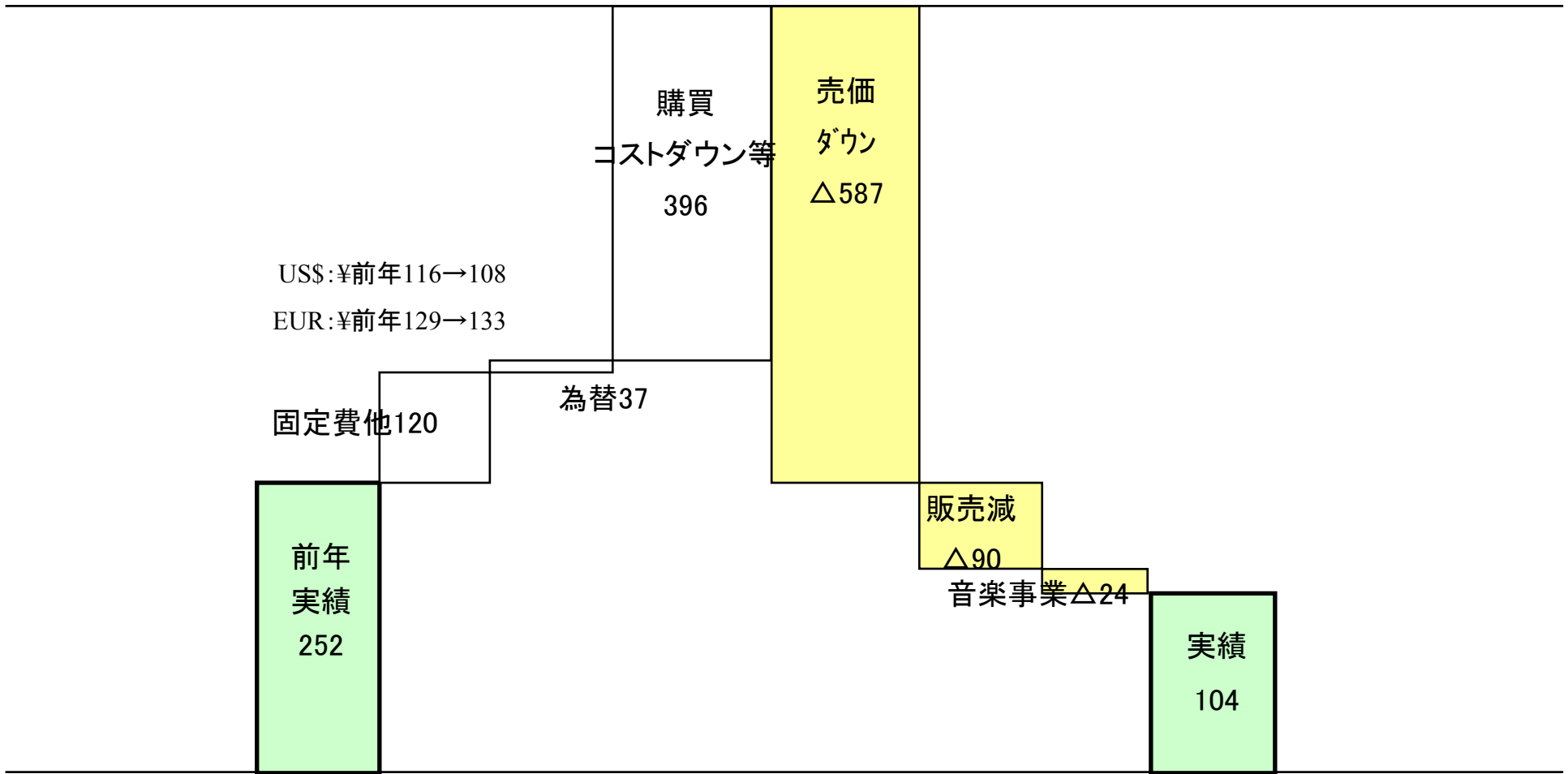
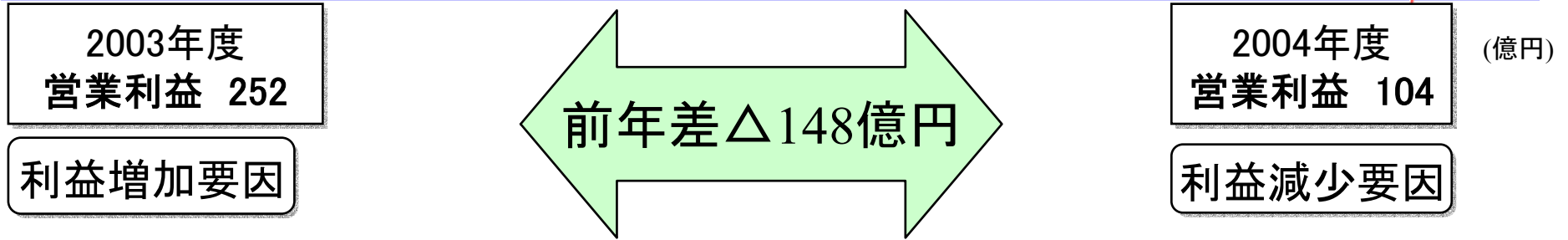
2004年度 販売状況



四半期別 民生の販売状況(前年伸長)

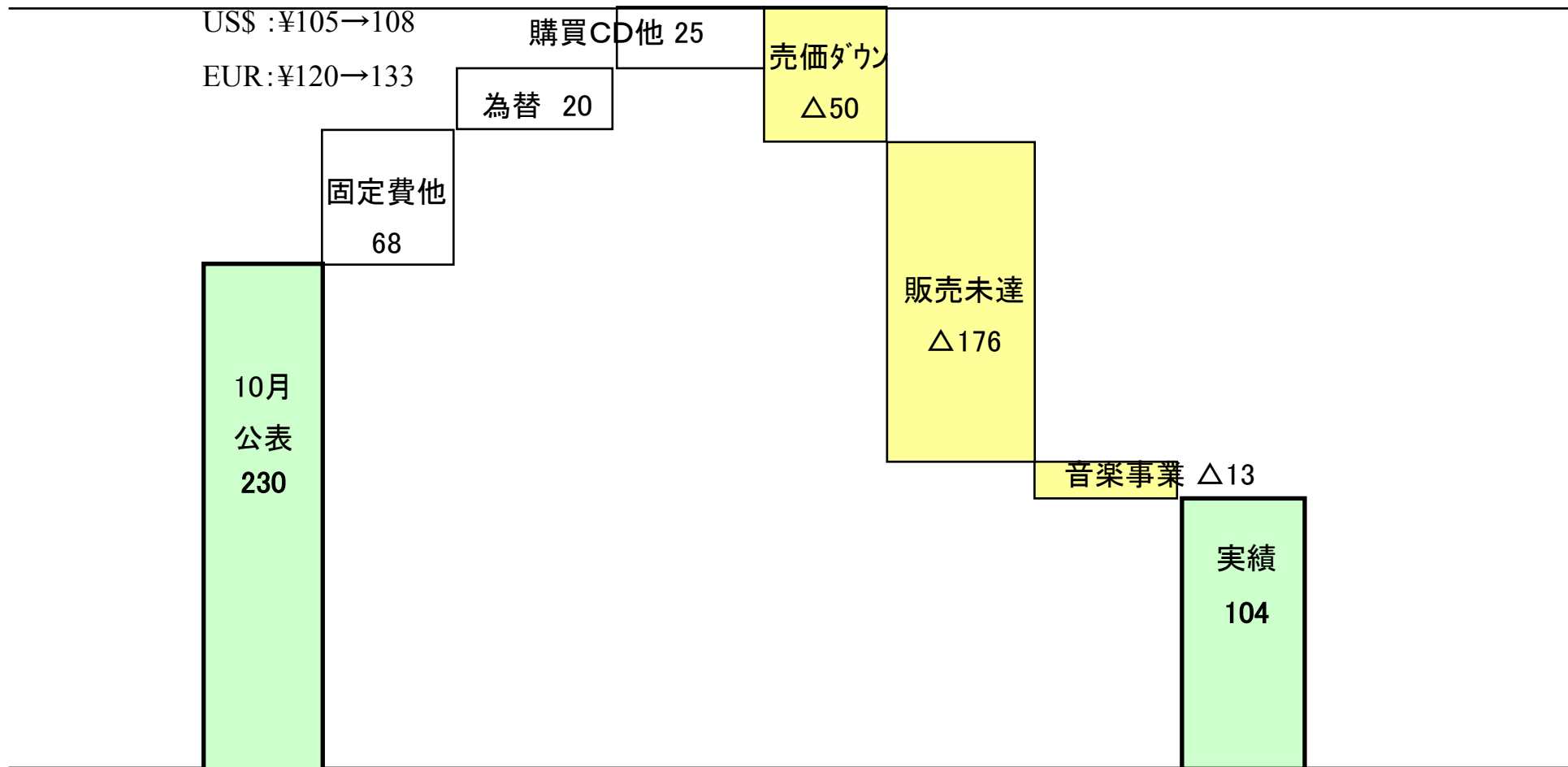
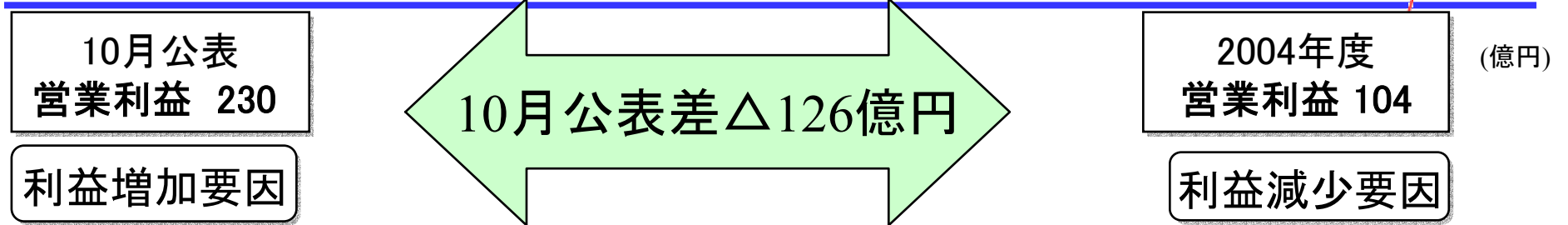


2004年度 損益増減分析(前年差)



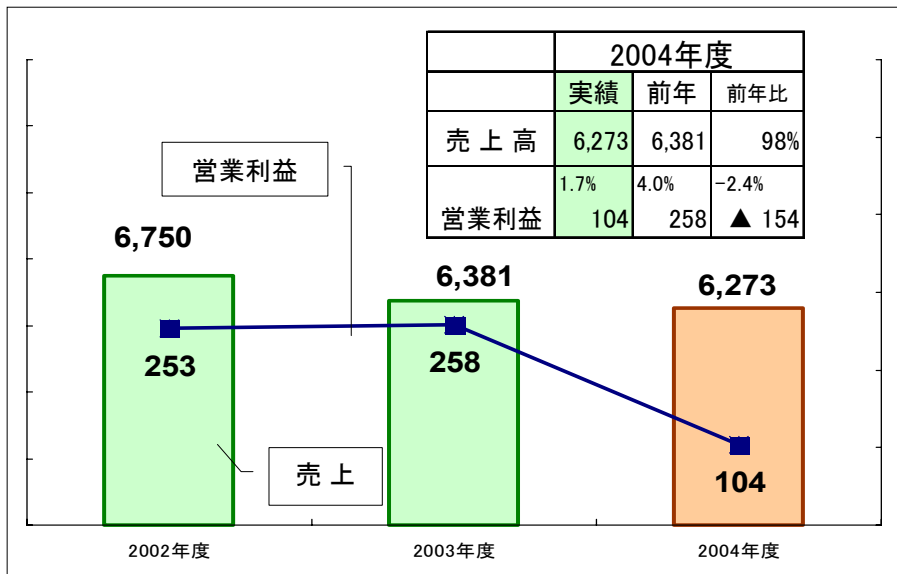
2004年度年間 損益増減分析(10月公表差)

(億円)



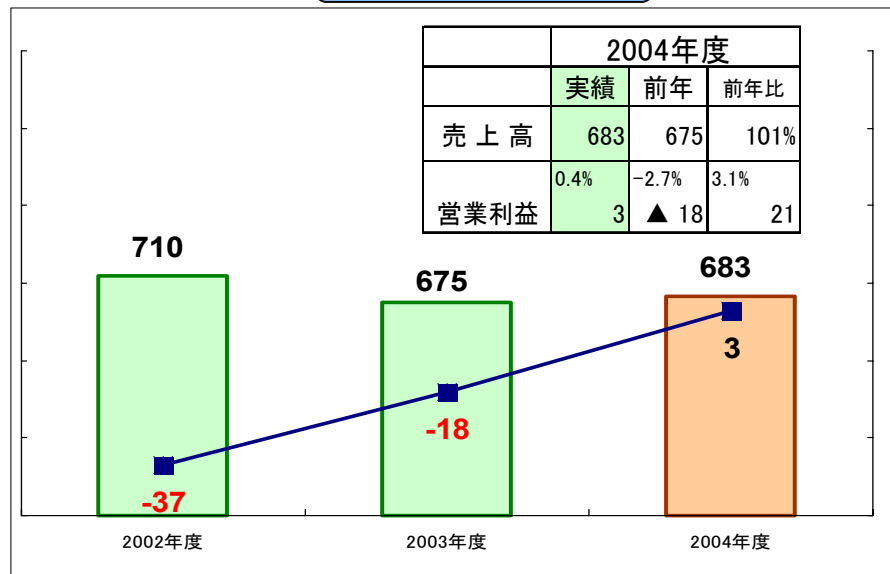
2004年度 セグメント別の状況

民生

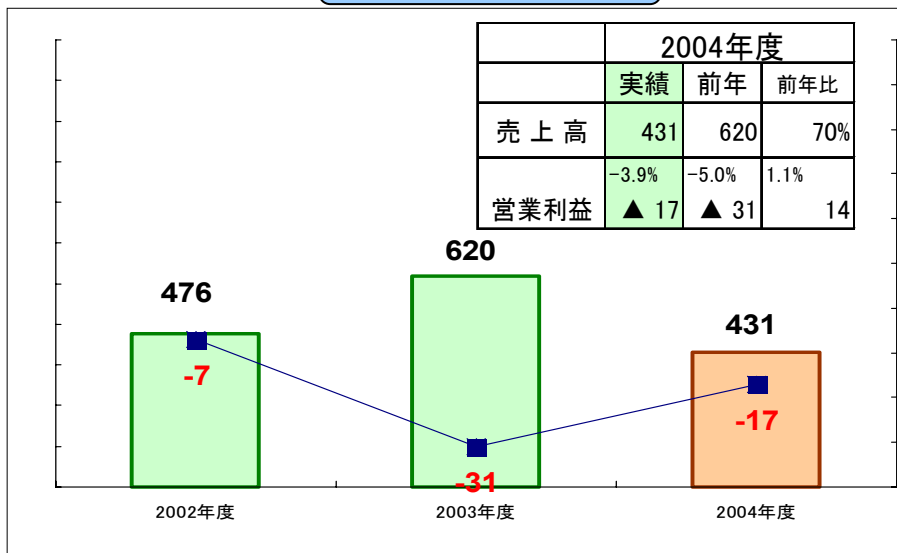


産業

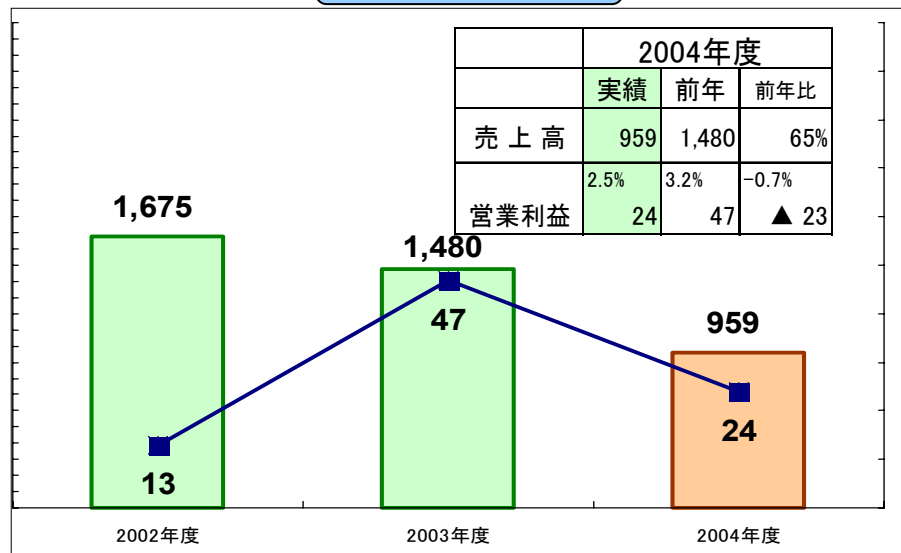
(億円)



デバイス



ソフト・メディア



	実績
固定資産・不動産売却等	10.8
株式売却益/有価証券関連	35.6
事業構造改革費用	▲ 65.9
その他	▲ 6.0
合計	▲ 25.5

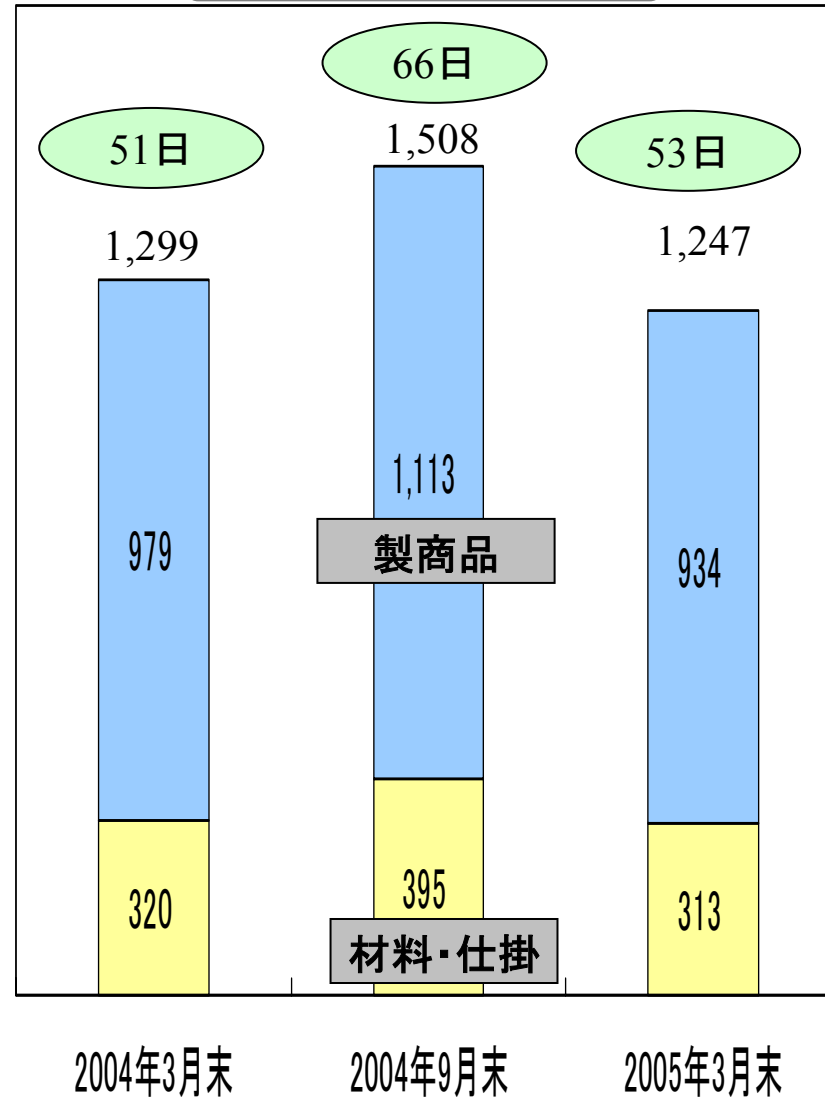
総資産の状況

総資産

為替レート	2004/3	2005/3
US\$	106	108
EUR	129	139

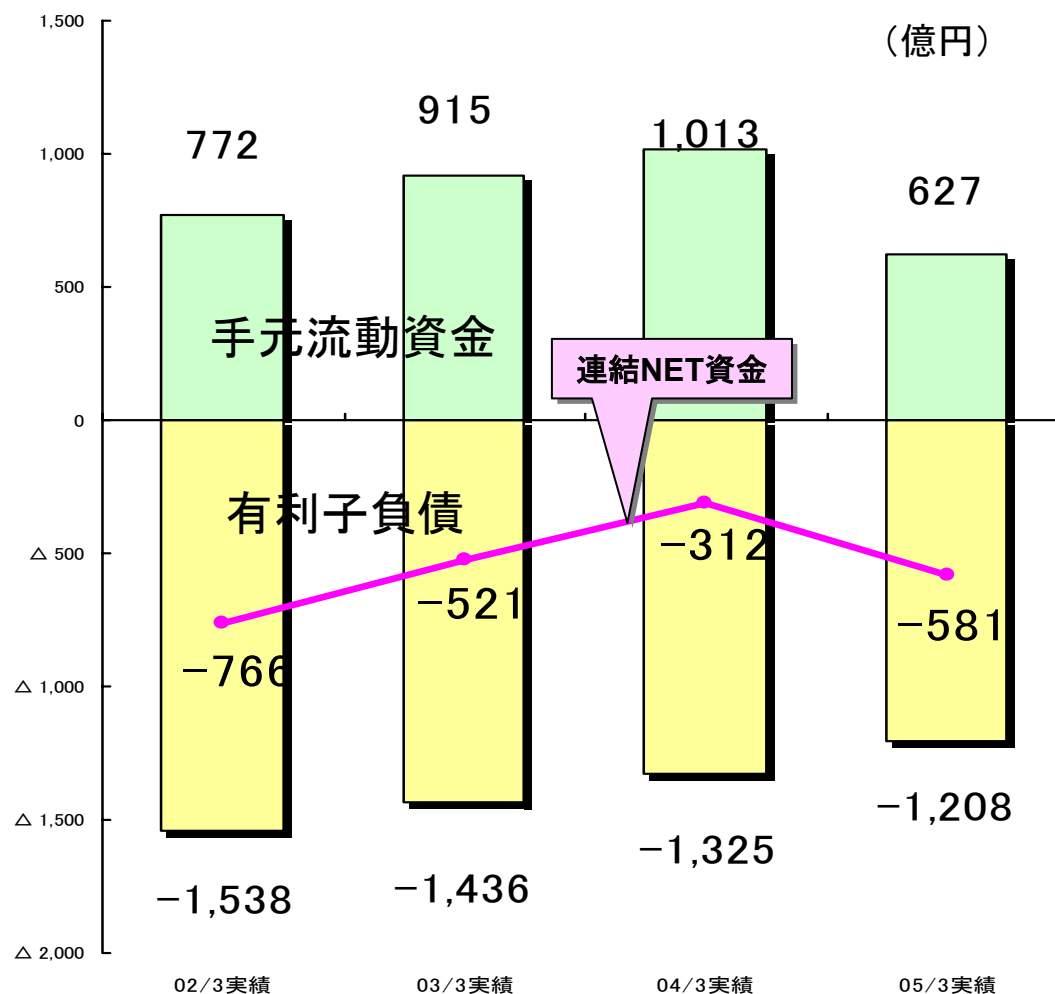
棚卸資産

(億円)



連結C/F計算書

税引前利益	47
減価償却費	220
運転資金	▲ 223
棚卸資産	81
構造改革	▲ 115
その他	▲ 72
営業C/F	▲ 62
固定資産	▲ 268
株・不動産売却等	129
投資C/F	▲ 139
フリーキャッシュフロー	▲ 201
財務C/F	▲ 156
その他調整	12
現金増減	▲ 345
期首残高	972
期末残高	627



【金型を除く有形固定資産】 (億円)

	2003年度	2004年度
設備投資	143	181
減価償却費	125	125

2005年度 業績予想

<連結>

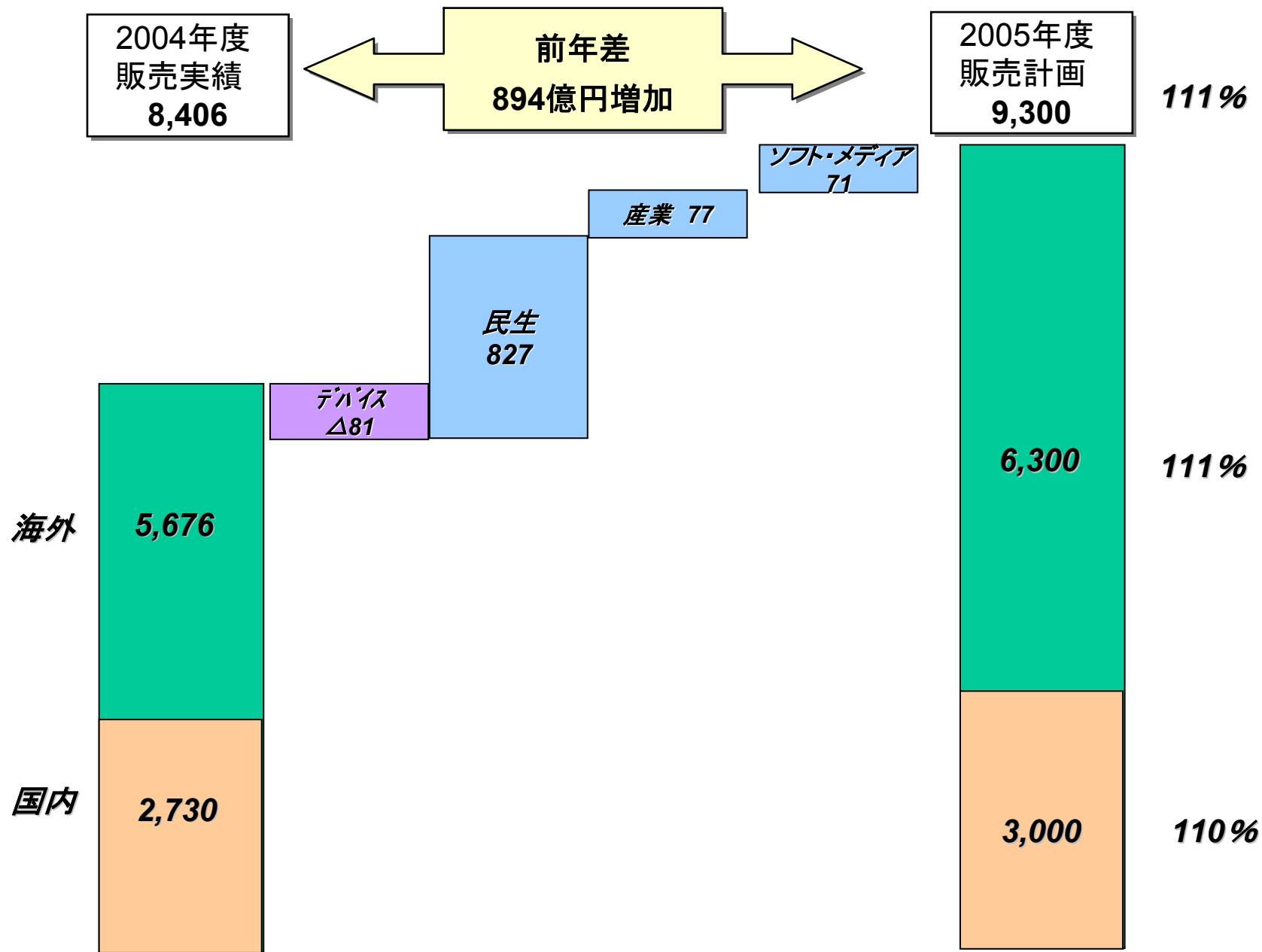
(億円)

	計	画	前年実績	前年差
売上高		9,300	8,406	111%
営業利益	2.7%	250	104	240%
経常利益	1.9%	180	73	247%
純利益	0.8%	70	▲ 19	89

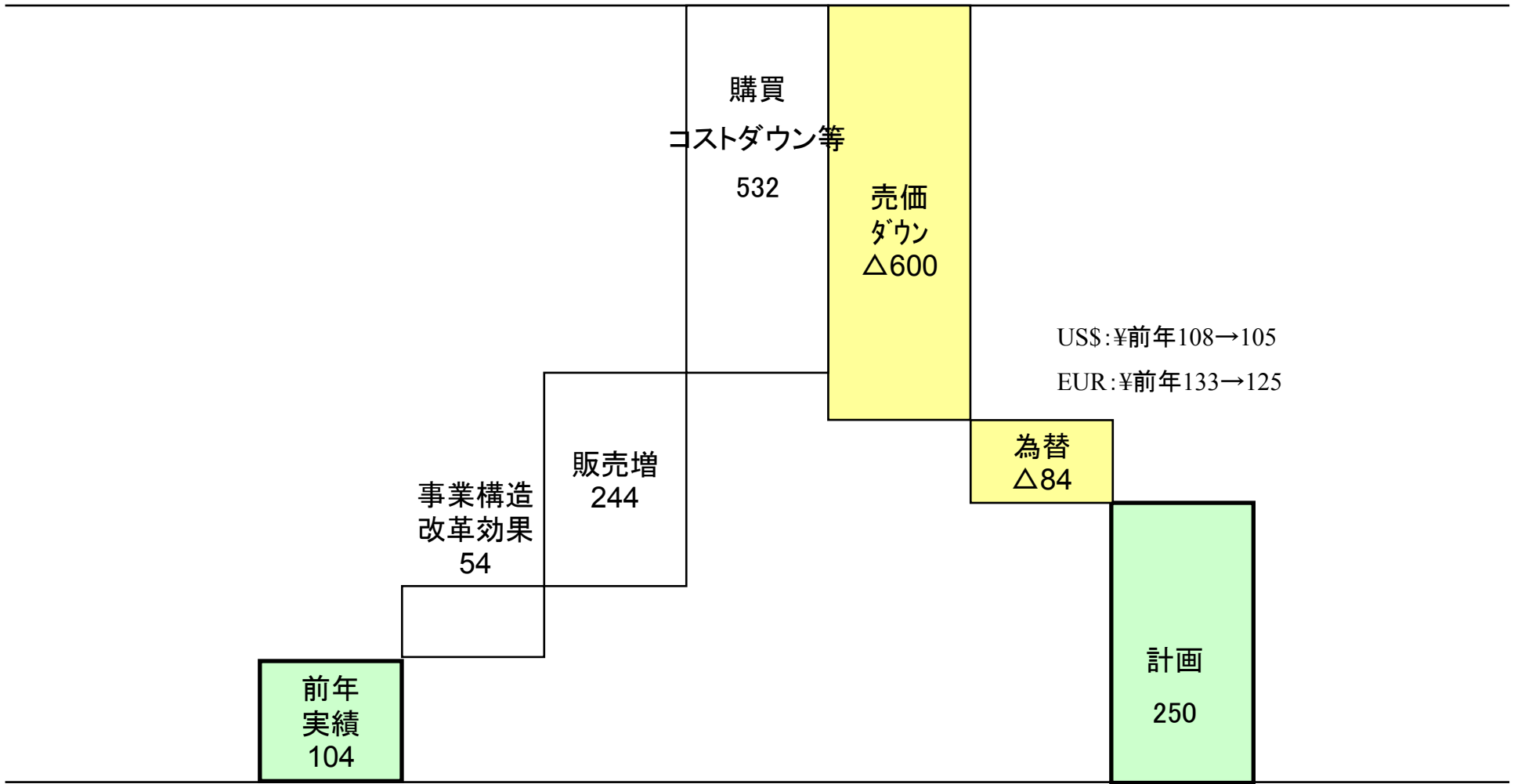
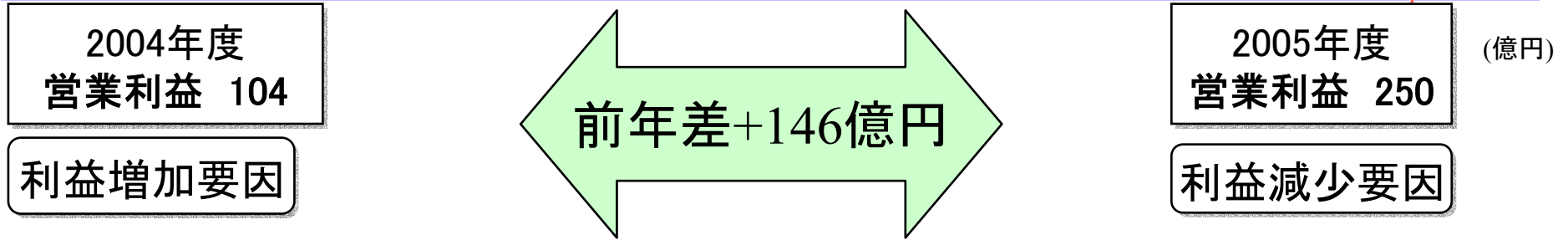
<上半期>

	計	画	前年実績	前年差
売上高		4,300	4,102	105%
営業利益	1.6%	70	43	161%
経常利益	0.7%	30	33	▲ 3
純利益	-0.9%	▲ 40	▲ 44	4

2005年度 販売状況

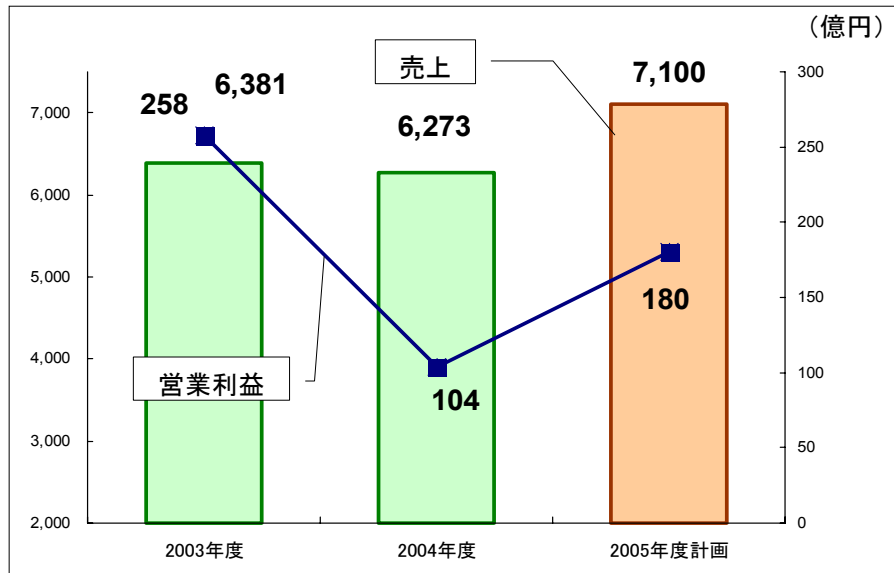


2005年度 損益増減分析(前年差)

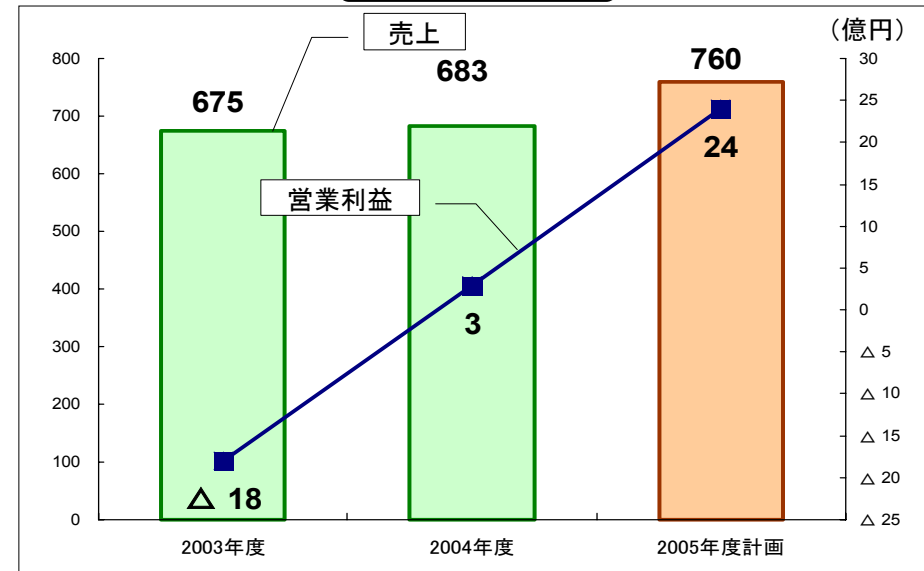


2005年度 セグメント別の状況

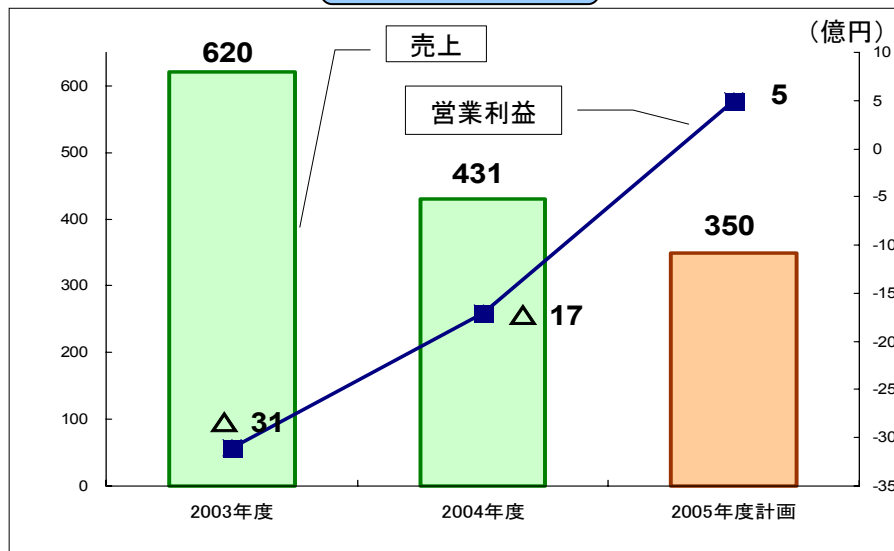
民生



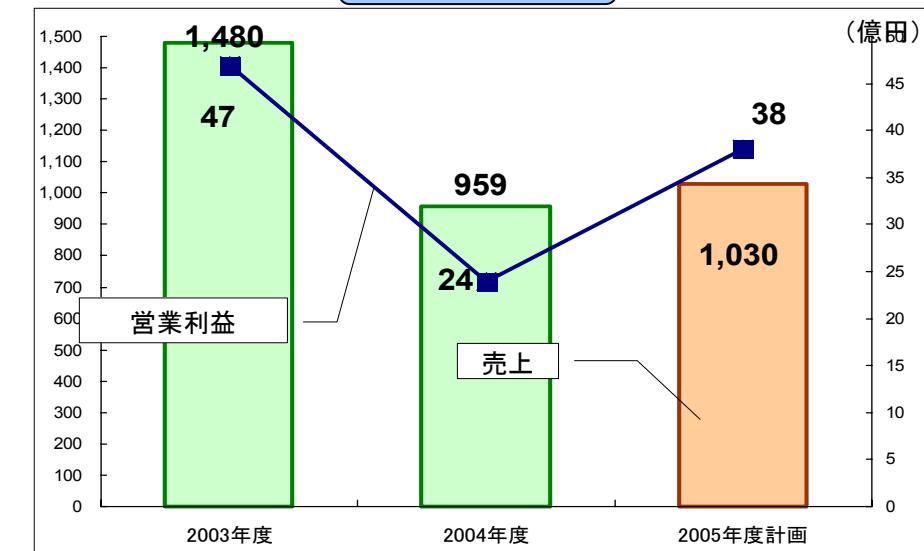
産業



デバイス



ソフト・メディア



04年度業績見通しの推移

(単位:億円)

	当初計画	10月修正	4月修正	実績
売上高	9,350	9,050	8,400	8,406
営業利益	280	230	100	104
純利益	80	40	▲20	▲19

10月に業績見込を 下方修正

- ・カムコーダー販売不振
- ・欧州市場の低迷
- ・音楽CD不振

再度業績見込を 下方修正

- ・民生新商品の投入遅れ多発
- ・低価格化競争への対応力不足
- ・音楽ソフト主力タイトル発売遅延

民生

売上 7,100 (113%)

営利 180 (173%)

主力の民生事業再建が
2005年度業績回復のための最大のテーマ

産業

売上 760 (111%)

営利 24 (800%)

◆ セキュリティ事業の強化拡大と、
プロ用HDカムコーダー市場投入

デバイス

売上 350 (81%)

営利 5 (+22)

◆ HDD用流体軸受を中心とした
モーター事業の拡大

ソフト・メディア

売上 1,030 (107%)

営利 38 (158%)

◆ 主力アーティストのアルバム発売と
若手・新人の強化・育成

05年度の取り組み

新商品の
投入遅れ多発

タイムリーな
新商品導入

- ・リードタイム短縮
- ・ソフト開発力強化

商品ライフサイクル
短期化への対応

- ・機種数の削減
- ・品質、コスト管理の徹底

高速回転と効率化を
目指した経営改革の推進

構造改革
の常態化

低価格化競争へ
の対応力不足

“Only1商品”による
差別化戦略の加速

成長戦略
の加速

新技術ビル“Techno Wing”



高速回転と効率化を目指した経営改革の推進

■ 経営オペレーション改革の推進

経営責任分担の明確化

組織体制のシンプル化とスリム化

開発・生産・販売の推進プロセスの見直し

■ 生産拠点の見直し: 1~2拠点削減

■ 雇用構造の見直し: 国内500名規模の削減

重点成長事業

1. ディ스플레이事業： 3本柱(D-ILA/FDP/CRT)の確立
2. 光ディスク事業： ラインナップの選択と集中

基幹事業

3. カムコーダー事業： ハードディスクムービーで新たな録画文化創造
4. カーエレクトロニクス事業： ビジュアル&ナビへのシフト
5. AVシステム事業： ホームシアター商品の拡大

販売戦略

流通との「製販同盟」づくりを進め、各地域で二桁成長へ

HDリアプロの
ビクター・JVCを
目指す！



◆D-ILA素子を月産3万台(9万枚)へ増産

◆北米販売を強化、国内、アジア、中国に新規投入

◆フルハイビジョンタイプ投入

◆小型エンジンによるコストダウン

05年度の進め方

(単位:億円)

	04年実績		05年見通し	対前年
売上高	8,406	躍進21計画 への 再チャレンジ	9,300	111% 894
営業利益	1.2% 104		2.7% 250	240% 146
純利益	- ▲19		0.7% 70	- 89

◆2005年度基本方針

お客様に夢と感動をお届けする **真のお客様価値創造企業を目指して**

ビクター・JVCらしいOnly1商品による高付加価値経営と、
デジタル時代のスピードに対応できる高速回転経営を両立する

本格化するHD時代に対応し、ハードの品質を超えて、
当社のDNAである、人の感性に訴える“感質”を追求する